那谷寺

那谷寺の自然岩は、2,000 年以上にわたって神聖な場所として崇拝されてきた。崖と洞窟は、火山の噴火と海流の浸食によって形づくられた。この自然岩は、寺の苔に覆われた森、伝統的な日本庭園、鯉で満たされた池の上方に、荘厳にそびえ立っている。このような景観から、那谷寺は、ミシュラン・グリーンガイドで 1 つ星を獲得した。

那谷寺の洞窟は、白山に棲む神々をあがめる土着の白山信仰者たちによれば、輪廻転生に関わる場所と考えられていた。僧侶の泰澄（682−767）は、717 年に神を探して白山に登った。彼が山頂で瞑想していると、諸仏の菩薩である観音が目の前に現れた。泰澄は、この観音を讃えて那谷寺を建てる事を思い立ち、同じ年に創建を開始した。

現在、那谷寺は観音を祀っている。この寺は、自然岩と一体となって建てられており、自然と人間の生活との調和という泰澄の信仰を体現し続けている。神社でよく見られる鳥居など、仏教以外の建築要素を取り込むことで、仏教と白山信仰、那谷寺で実践されている自然崇拝の融合を際立たせている。

那谷寺の木造のお堂や塔には、干支の動物、ボタン、菊などが精巧に彫刻されている。多くの仏教催事が行われる金堂華王殿には、郷土の九谷焼のタイルに囲まれた 7.8m の観音像がある。

別途の拝観料で、1637 年に前田利常（1594−1658）が建立した書院と、静かな庭園を拝観できる。